

第 49 回

社会貢献者の記録



公益財団法人
社会貢献
支援財団

第 49 回

社会貢献者の記録

目次

表彰選考委員プロフィール	004
式典次第	005
会長挨拶	007
表彰選考委員長挨拶	008
受賞者代表挨拶	010
記念写真	012
表彰式スナップ写真	014
来賓祝辞	022
祝賀会スナップ写真	024
社会貢献者表彰とは	027
受賞者手記 目次	028
社会貢献の功績	031
資料編	138

表彰選考委員プロフィール

委員長



脚本家 東北大学相撲部総監督

内館 牧子

東京都教育委員会 教育委員ほか

脚本：「ひらり」「てやんでえッ!」「私の青空」「毛利元就」「エイジハラメント」ほか多数

著書：「終わった人」ほか多数

委員



元国税庁長官

大武 健一郎

関西大学客員教授 認定 NPO 法人ベトナム簿記普及推進協議会理事長

著書：「平成の税・財政の歩みと21世紀の国家戦略」「税財政の本道— 国のかたちをみすえて」ほか多数

委員



産経新聞 東京本社 編集局 副編集長

小川 記代子

委員



久米繊維工業株式会社 取締役会長

久米 信行

著書：「メール道」「ブログ道」(NTT 出版)「NPO のための IT 活用講座 効果が上がる情報発信術」「すぐやる人だけがチャンスを手に入れる」ほか

委員



ノンフィクション作家

吉永 みち子

「羽鳥慎一 モーニングショー」コメンテーター

「あさちゃん! サタデー」コメンテーター

著書：「気がつけば騎手の女房」「性同一性障害」「26の生きざま」「老いの世も目線を変えれば面白い」「試練は女のダイヤモンド」ほか多数

式典次第

第一部 表彰式

10：30…開 式

- ・ 会長挨拶
- ・ 表彰選考委員長挨拶
- ・ 表彰状並びに副賞の贈呈
- ・ 受賞者代表挨拶

12：30…閉 会

第二部 祝賀会

12：40…開 宴

- ・ 来賓祝辞 乾杯のご発声

13：30…閉 会

(平成29年11月27日 於帝国ホテル東京)

会長挨拶

皆様おはようございます。

社会貢献支援財団の会長を務めさせて頂いております安倍昭恵でございます。

本日は650名以上の皆様方にご臨席頂きまして、この社会貢献者表彰式典を開催させていただきますことを大変嬉しく、心より感謝申し上げます。

また表彰式の開催にあたり、ご支援いただいております日本財団をはじめ、候補者を推薦下さいました皆様、関係各位にお礼申し上げます。

さて本日、53件の社会貢献活動の功績を表彰させていただきますが、受賞者の皆様、そして活動を支えていらっしゃるご家族はじめ、関係者の皆様には心からの敬意を表します。

私も、これまでに、過去に表彰された方の活動の現場にお邪魔させて頂いております。先月は、広島市の自宅で30年以上も行き場の無い少年達に食事を提供する活動を続けている、ばっちゃんこと中本忠子（なかもとちかこ）さんと、お世話になったかつての少年達とお会いする機会がございました。

と申しますのは、以前に中本さんとお会いした時に、少年の中には入れ墨をしているので温泉に行きたくても行ったことがないとか、新幹線に乗ったのは、手錠をしたまま少年院への護送の時、一度きりだと言っていたことがずっと心の中にあったとのお話がありました。

そして中本さんがこの度、これまでに頂いた副賞をその少年達との旅行に充てたいというお話をきっかけに、地元の旅館をお世話させていただき、この話が実現することになりました。

この会合には、同様に少年の更生に力を注ぐ方や、同じような境遇から、今では助ける側になった方も加わり、夜遅くまで車座になって、生い立ちや立ち直り、今どんな暮らしをしているかを語る彼らに、時に涙し時に笑いながら、耳を傾けました。

本日の受賞者の皆さまも、活動の内容や状況は違っても、お1人お1人が、現代社会の中で生きづらさや、不自由さ、疎外感を感じる人々に寄り添い、よりよい社会づくりに貢献されている方々でございます。

皆様方には、これからも活動を続けていただき、わが国が誰にとりましても住みやすい国になるように、お力をお貸しく下さいますようお願い申し上げます。

本日ご列席の皆さまのご健勝と、一層のご活躍をご祈念し、簡単ではございますが、挨拶とさせていただきます。

受賞者の皆さま、本日は本当におめでとうございました。



公益財団法人 社会貢献支援財団
会長 安倍昭恵

表彰選考委員長挨拶

ただいまご紹介に預かりました、内館牧子でございます。

本日このように多くの方にお集まりいただき、盛大に式を挙げられますことを、大変に感謝しております。ありがとうございました。今回の選考過程を含めまして、ひと言ご挨拶申し上げます。

平成29年後期となる今回は157件を選考委員で丁寧に選考させていただきました。

その結果、団体31件、個人22人の計53件を決定いたしました。

わたくしが今、階段を助けられながら昇り、よたよたとぎこちなくステージに上がってきたところをご覧になったと思いますけれども、実は右足の指5本全部と、足の甲の骨を一本、トータル6本の骨折をいたしました。8月まで車椅子だったのです。今でも十分に不自由なのですけれども、車椅子生活とか、全く動けない状態の時の不自由なことといったらとても言い表せない程でした。他人の手を借りないと動けませんし、でも手を貸して欲しいというのはなかなか言いにくいものなんですね。まして、しょっちゅうは言えないので、つい遠慮します。我慢します。そうすると段々自分が情けなくなってきました、かつ「何か逃げなくてはならないようなことが起きたらどうにもならないわ」なんて心細くもなってもくるわけです。そういう状態でありましただけに、今回皆様が体の不自由な方々とか高齢者とか子どもとか、いわゆる非力な方々に対して細やかに、それも長きにわたってお力を尽くされていることが本当に自分のことと重なり、大変に有難く思いました。

身体のだこかが不自由であるという状態は、そうでない人には恐らく想像もつかないストレスだと思います。それを、身を持って体験しただけに、そんな方々にとって皆様のお力がどれほど安らぎとなり、励ましとなっているか、よくわかったという思いがいたしました。

また今回、89歳の広島の平田弘子様は路上生活者に長年の支援活動を続けられ、またその一方で、佐賀県の伊万里高校の理化・生物部の生徒さんは絶滅危惧種のカブトガニの保護活動を続けておられます。これは学校内で引き継がれているということですが、若い方々からご高齢の皆様まで、自分に出来ることを精一杯、長くやるということが大きな力となって蓄積され、次の世代に繋がっていくことを実感させられております。

また、本来は行政でやるべきですのに行き届かず、民間の皆様が細やかに動いて下さっていることがたくさんございます。例えば今回は、刑務所や少年院を出た後の



就労支援の功績が4件ございました。横須賀市の岡本昌宏様、ウイズ広島、福岡田川市の田川ふれあい義塾、愛知の再非行防止サポートセンター愛知。現実として、刑務所や少年院の出所者は行き場が無く、仕事にも就けず、結局は再び罪を犯して刑務所へ戻るといった悪循環がなかなか断ち切れません。それを何とか絶とうということで、暖かい活動を続けておられます。

かつて、私はテレビドラマの取材のために、松本少年刑務所を訪れたことがございました。その時、今でも忘れられない光景が二つあります。ひとつは面会室です。すごくきれいにお掃除してあり造花ながら花も絵の額もありました。でも、非常に殺風景で寒々とした印象がぬぐえないんです。その時、刑務所の関係者が私に言いました。

「多くの受刑者の親が殆ど面会に来ないんですよ」

親や親戚や色んな人が面会に来てくれると、おそらくその部屋の空気はまるで違っていただろうと思います。もう一つは、受刑者たちがみんなで集まって、ひとつの広い部屋で作業をしていました。それを見せていただいている時に刑務官が来て、「×番、面会だよ」って言ったんですね。そうしたら、そう言われた少年は凄く誇らしげに出て行きました。わたしが忘れられなかったのは、彼を見送る他の少年受刑者たちの眼差しでした。本当に羨ましそうに見ておりました。誤解を招く言い方もしませんが、路上生活者であっても、罪を犯した人であっても、人間は誰しも人間の愛情を欲しがっているものだと、あの時ほど思ったことはありません。

今日お集りの皆様様の愛情が、非力な人たちをどれほど勇気づけ、また再犯を防いでいることかと、改めましてお礼を申し上げます。

尚、曾野綾子元委員長がいつも「副賞のお金はどうぞ皆様ご自身やグループのためにお使いください」とおっしゃっておられました。皆様のことですから、おそらくいただいたお金は、また社会に還元しなければとお思いになる方が多いと思います。でも、メンバーで温泉に行ったり、おいしいものを食べたり、個人の方はずっと欲しかったお洋服をちょっと買ったり、どうぞご自分の好きなようにお使いいただきたいと思います。これは決して公私混同というものではなくて、そうすることによって一人一人が、またグループがますますやる気が出て、リフレッシュして、そして再び活動に力を入れてくださるのならば、当財団といたしましてもこれほど嬉しいことはございません。

本日は皆様本当におめでとうございました。そしてありがとうございます。これからもぜひご活躍をお続けください。

公益財団法人 社会貢献支援財団
選考委員長 内 館 牧 子

受賞者代表挨拶

川越救急クリニックという救急クリニックをしております院長の上原でございます。

受賞者を代表いたしまして、ご臨席の皆様一言挨拶を申し上げます。

本日はこの栄えある賞を授与いただきました、社会貢献支援財団の皆様並びにこの素晴らしい会場ご用意くださいました帝国ホテルの関係者の皆様、そしてこの場にご臨席いただいた皆様、代表者として深く御礼申し上げます。ありがとうございます。



私ども、川越救急クリニックというのは、日本の救急事情を少しでも改善しようと日々活動しております。日本の救急医療についてご紹介いたしますが、現在、軽症者を診る一次救急、中等症者を診る二次救急、そして命にかかわる重症者を診る三次救急と三段階に分かれております。ところが日本という国は、お医者さんが少ないのです。人口当たりの医者がかかなり少ない国のひとつであり、救急の医者というのは更に少ない。従って、一次救急、二次救急と軽症者を診るところには救急の専門医が殆どおりません。重症者を診る三次救急に専門者はいます。いわゆる救急病院、市中にあるいわゆる一般病院は、内科、外科あるいは耳鼻科、眼科という各専門の医者が当直医としているだけであります。そうすると、例えば先ほど内館委員長が足の骨を折ったと仰っていましたが、「今日の当直医は耳鼻科」がいる病院に電話をかけても断られるわけです、「専門外です」と。それがあっちゃかけて下さい、こっちゃかけて下さいといういわゆる“たらい回し”という状態を招いております。当直医に何科の医者があるかによって市民の命が左右されてしまうことが起こりかねない。正に休日夜間の診療というのは、運によって左右されている部分が非常に大きい、これが今の日本の救急医療の現状なのです。

これを解決するために軽症患者、一次二次の救急にも全身が診られる医者が必要だろうと思ひまして、私は救急専門医の資格を取って救急センターで働いていたのですが、敢えて救命センターを辞めて、市中に普通のクリニックという形で救急専門のクリニックを開業いたしました。開業してみたら、日本で初めてだったらしく、連日マスコミに取り上げられたり色んなことをしておりますが、内容的には大したことしていません。行き場のない患者さんを診ているだけなのです。

開業してから全国から心ある看護師さん、お医者さん、若い先生たちがいっぱい研

修とか見学に来てくれています。彼らも日本の救急事情を良くしたい、改善したいという熱意があります。その熱意を受けて、うちがあるだけじゃダメだろうということで2014年に「日本救急クリニック協会」というNPO団体を設立しまして、今後そこが全国にこのようなクリニックが出来るように、支援していけるようにと現在活動を続けております。

さて今53件の受賞者の方々のビデオを拝見しましたが、本当に色々な分野で色々な方が頑張られているのだなと思いました。今回のこのビデオを見るまでこんな活動をしている方がいるのだと知らない方がいっぱいいました。見ているうちに一つ感じたことがあります。途中で、「人の幸せはわたしの幸せ」という法被を着ている方が出てきましたけれど正にそれでありまして、僕らの共通している思いは、「だれか他の人の笑顔が見たい、他の人の安心した顔が見たい」それが自分の幸せにつながる、という共通した思いでやっているのだなあと感じました。こういう人たちがどんどん増えていくと日本はいい国になるのだらうと思いつつ見ていました。

今年までにこの財団の表彰を受けた方は1万2千人、団体もいらっしゃるそうです。今日で1万2千53人になったのかな。我々ひとりひとりが他の人の笑顔が見たいと思って過ごせる国が広がっていくといいなと思います。いつかこの日本をみんなの笑顔で溢れる国にして貰いたいなと思いました。そしてそれが出来るまで、この財団の方々にこの表彰をぜひ続けて下さい、とお願いをいたしまして私の挨拶とさせていただきます。

本日は本当にありがとうございました。

川越救急クリニック 院長
日本救急クリニック協会 理事長
上 原 淳

記念写真



小平 晴勇



門戸 竜二



島田 豊美



中村 信也



中嶋 将晴



徳田 竜之介



岡本 昌宏



金森 忠一



金森 泰子



三原 睦子



坂本 裕子

チャイルドラインほっかいどう



岡田 卓子

Baby ほげっと



清田 悠代



長谷川 笑子

宇治市護者(家族)の会



側垣 一也

CADセンター! JAPAN



福谷 佳子

食育ボランティア(総い)



芳賀 ヒロ子

明友



前島 麻美

山王ともセンター



廣田 しづえ

全国とうあヘルパー連絡協議会



高橋 義男

にわとりクラブ



鈴木 次郎



池谷 修



ミヤ ケイ ティイ



安倍 昭恵

会長



山口 武雄



平田 弘子



菅嶋 仁侠



飯尾 順子



喜納 正博



第49回 社会貢献者表彰式典

公益財団法人社会貢献支援財団

Supported by THE CARPONS
for Environmental

- | | | | | | | | | | | |
|--|---|---|--|---|--|--|--|---|---|---|
| 
サポートセンター
再発防止
高坂 朝人 | 
黒島研究所
若月 元樹 | 
ハーレリア会及の社
柏尾 真道 | 
臼杵 尚志 | 
CCV
福田 由美 | 
上原 淳 | 
フローレンス
駒崎 弘樹 | 
グリーンバード
横尾 俊成 | 
カコテム
高橋 勇造 | 
コラルネットワーク
宮本 育昌 | |
| 
フェイス広島
山田 勘一 | 
SIA.b. | 
点字サークル連
久谷 洋子 | 
Basic Life
Support KOBÉ
原本 静雄 | 
時ノ寿の森クラブ
松浦 成夫 | 
中村 豊 | 
伊万里高等学校
犬塚 加代子 | 
教諭のカフトカニ
ホタルを育てる会
堀 實 | 
伊万里市カブトガを守る会
堤 悠樹 | 
輪の会
寺岡 昇 | |
| 
教協連
込山 光廣 | 
古谷 滋子 | 
古谷 寿彦 | 
京都わらび会
岸 十九恵 | 
株式会社クラロン
田中 須美子 | 
倉長
安倍 昭恵 | 
田川ふれあい養護
工藤 良 | 
彦山 ひろみ | 
森 奏子 | 
ラフジアーニ実行委員会
北村 明広 | 
大切路刈開志隊
上野 一夫 |

表彰式

















来賓祝辞

本日、長年のご労苦が評価され表彰を受けられた皆様方に、心からのお祝いと同時に日本国民の一人として感謝の意を表したいと思います。

皆様方の日々の地道な活動を通じて多くの人々が救われたことを考えますと、この世に同じ人間として生を受けながら、社会あるいは家庭が大きく変化する中で様々な問題に直面し、行き場所を失い、生きづらさを感じ、孤独になりがちな人々が多数存在することを忘れる訳にはいきません。

そうした中、日本人は互いに助け合う共存の精神で今日の日本を創ってきたわけがあります。そういう強いDNAをお持ちの皆様方が存在し、現に活動されている事実が、これからの日本に何よりの力になると確信しております。

日本財団は、皆様方の活動を次の世代に引き継ぐにはどうしたらいいか、そんな考えに立ち先般、「日本財団ソーシャル・イノベーション・フォーラム2017」を開催しました。驚くべきことにフォーラムには、多くの学生そして若い人たちが、立見席が出るくらい集まって下さいました。

皆様方がご存知のような大企業に勤めましても、最近では入社後3年で30%から35%の人が辞めていきます。大きな組織の中で仕事をして自分自身の活動が見えない、もっと社会の人と直接触れ合う仕事をしたい、という若い人たちが増えているのです。

学者や評論家が指摘する日本の将来の危惧とは違った新しい動きが、若い人たちの間に生まれてきているのだと思います。今日受賞された皆様方には、こうした志を持って次の世代を担う人材が沢山いることに意を強くして、さらなる活躍をしていただくよう期待しています。

社会のために働きたいと希望する若い人たちが、そのきっかけやアクセスを確保出来ないということもあると思います。日本財団では皆様方の仕事をさらに拡大し、志ある若者との繋がりを強化していくことが重要だと思っております。遠慮なく相談いただければ、若い方々と皆様方を引き合わせ、繋がりを広げていくことが出来ると考えています。

もちろん政府も行政も社会課題解決のために懸命に尽力されていますし、わが国のように社会福祉政策予算が全体の40%を超える国は世界にそんなにありません。しか



し社会課題の解決は行政だけで出来るわけではありません。やはり「草の根」からの拡がり重要です。

相手に対する思いやりや皆様のような深い愛情を持った方々の情熱的な活動があって初めて、世界でも稀な安全で安心な日本社会が構築できたのは間違いありません。国民の75%が現在の生活に満足しているという国も日本だけです。これは決して経済的な面だけではないと思います。

皆様方のような人々によってセーフティーネットも確立されていますが、まだまだ十分ではありません。日本財団はそういう役割を果していく組織として、皆様と共にこれからも歩んで参りたいと思います。溢れる情熱、どんな困難にも立ち向かう強い心、そして成果が出るまで頑張り通す継続性こそ重要だと思います。本日、表彰された皆様は、まさにこの3点を実行されてきた方々だと思います。

私は全ての人が平等に生活でき、障がいがあろうとなかろうと日本国民として平等に生活できる社会にしていくことが2020年のオリンピック・パラリンピックのレガシーだと考えています。皆様とともに真剣に、明るい未来の日本をつくるため働かせていただきたいと願っております。

社会貢献支援財団におきましては、公私ともにご多忙の中、安倍昭恵会長を筆頭に理事の皆様方、そして内館牧子先生を中心とした選考委員会の皆様方の多大なご努力により年々、制度が充実しているのは関係者の一人として大変嬉しいことであります。同時に、世の中の知られないところで活躍されている方々は、まだまだ数多くいらっしゃると思います。ご参加の皆様方には、そういう方々を推薦賜りたく思います。

報道その他で様々な悲観論が論じられていますが、日本の将来はそんなに捨てたものではありません。日本人の心には2千年来、世界に冠たる国造りをしてきたDNAがあり、皆様方はそれをお持ちです。その心を顕在化して、次の世代を担う若い人たちに移していただきたいと思います。

今日を新たな第一歩として、さらにご活躍いただき、皆様方の善行が広く社会に浸透していくよう、お互い努力をしていこうではありませんか。

公益財団法人 日本財団
会長 笹川陽平

祝賀会







社会貢献者表彰とは

国の内外を問わず、社会と人間の安寧と幸福のために貢献し、顕著な功績を挙げられながら、社会的に報われることの少なかった方々を表彰させて頂き、その功績に報い感謝することを通じてよりよい社会づくりに資することを目的とする。

第49回社会貢献者表彰の概要

【募集告知】

2017年2月より、ダイレクトメール発送、新聞への告知広告、当財団ウェブサイト等にて。

【対象となる功績】

- 社会貢献の功績

【候補者について】

- 候補者には、年齢・職業・性別・信条・国籍等の制限はない。
- 候補者は、同種の功績により当財団の「社会貢献者表彰」を受賞されていない方とする。
- 候補となった功績と同一または同種の功績により、既に国の栄典（叙勲、褒賞）または・大臣表彰等を受賞されている方は、選考の際、後順位とされる。

【選考について】

選考委員会開催日：2017年6月2日 帝国ホテル東京

【受賞者】

受賞者：53件（内25件は2018年7月6日表彰予定）

応募総数：157件

【表彰式】

開催日：2017年11月27日 帝国ホテル東京

受賞者には表彰状、副賞として日本財団賞（賞金）を授与する。

受賞者手記目次

社会貢献の功績

池谷 修 ミヤ ケイ ティイ (テレサ)	032
岡本 昌宏	034
社会福祉法人 ストローム福祉会 エリザベス・ストローム記念 山王こどもセンター	036
特定非営利活動法人 NPO Baby ぽけっと	038
清田 悠代	040
中嶋 将晴	042
食育ボランティア「結い」	044
徳田 竜之介	046
NPO 法人 萌友	048
山口 武雄	050
萱嶋 仁侠	052
飯尾 順子	054
喜納 正博	056
全国ろうあヘルパー連絡協議会	058
特定非営利活動法人 障がい児の積極的な活動を支援する会 にわとりクラブ	060
特定非営利活動法人 CAP センター・JAPAN	062
宇治市介護者(家族)の会	064
中村 信也	066
島田 豊実	068
認定特定非営利活動法人 チャイルドラインほっかいどう	070
小平 晴勇	072
認定特定非営利活動法人 佐賀県難病支援ネットワーク	074
門戸 竜二	076
金森 忠一 金森 泰子	078
鈴木 次郎	080

平田 弘子	082
ラブ・ジ・アース実行委員会	084
伊万里市カプトガニを守る会 牧島のカプトガニとホテルを育てる会 佐賀県立伊万里高等学校 理化・生物部	086
大辺路刈り開き隊	088
コーラル・ネットワーク	090
中村 豊	092
特定非営利活動法人 時ノ寿の森クラブ	094
特定非営利活動法人 Basic Life Support KOBE	096
点字サークル「蓮」	098
社会福祉法人 大和社会福祉事業センター 障がい者福祉施設 ハートピア谷汲の杜	100
更生保護法人 ウィズ広島	102
特定非営利活動法人 TFG (田川ふれ愛義塾)	104
彦山 ひろみ	106
森 泰子	108
NPO 法人 再非行防止サポートセンター愛知	110
輪の会	112
特定非営利活動法人 カコタム	114
特定非営利活動法人 グリーンバード	116
認定 NPO 法人 フローレンス	118
上原 淳	120
特定非営利活動法人 CCV	122
臼杵 尚志	124
京都わらび会	126
SIAb. (Survivors of Incestuous Abuse)	128
NPO 法人 日本ウミガメ協議会 附属 黒島研究所	130
株式会社 クラロン	132
古谷 滋子 古谷 寿彦	134
特定非営利活動法人 全国視覚障害児童・生徒用教科書点訳連絡会	136

